

**Proof Checker PRO ver.4**  
**仕様変更 & 追加機能ガイド**

---

---

## 1. ProofChecker PRO ver.4 動作環境

ver.4ではMacOS10.9および、Windows8に正式対応しました。

### ●対応OS

○Mac

Mac OS X 10.5以降

○Windows

Microsoft Windows XP (Service Pack 3) 日本語版

Microsoft Windows Vista (32ビット/64ビット) Business (Service Pack 1) 日本語版

Microsoft Windows 7 (32ビット/64ビット) (Service Pack 1) 日本語版

Microsoft Windows 8 (32ビット/64ビット) 日本語版

※Windows XP/Windows Vista/Windows 7/Windows 8は、管理者の権限を持つユーザー (Administrator) での使用のみ  
検証を行っております。

### ●CPU環境

Mac … Intel Mac以上

Windows … Core 2 Duo以上

### ●USBポート

ハードウェアキーの接続に必要

### ●最低メモリ

2GB (4GB以上推奨)

### ●HDD空き容量

10GB以上

### ●対応PDF

Illustrator CS2～CS6、InDesign CS2～CS6から直接書き出したもの

Adobe Acrobat ver.6.x～10.xからインストールされるAdobePDFプリンターから書き出したもの

※パターン他、一部未対応のPDFオブジェクトがあります。

※PDF内のフォーム・リンク情報の照合は対応しておりません。

### ●対応フォント

CID/TrueType/OpenType

### ●検証済み言語

日本語、英語、イタリア語、オランダ語、ギリシャ語、スペイン語、タイ語、ドイツ語、トルコ語、フランス語、ベトナム語、ポルトガル語、マレー語、ロシア語、韓国語、中国語(簡体)、中国語(繁体)(あいうえお順)

### (1) 64bit OS 対応

64bitOSに正式対応しました。ver.4Windows版では、32bitOS対応版と64bitOS対応版があります。32bitOS上で64bitOS対応版は動作しません。インストールするPCのOSに対応したものをご使用ください。64bit版をご使用いただくと、ご使用のPCの空きメモリの範囲でPCPが動作可能です。

※WindowsXPは32bitOS対応版をご使用ください。

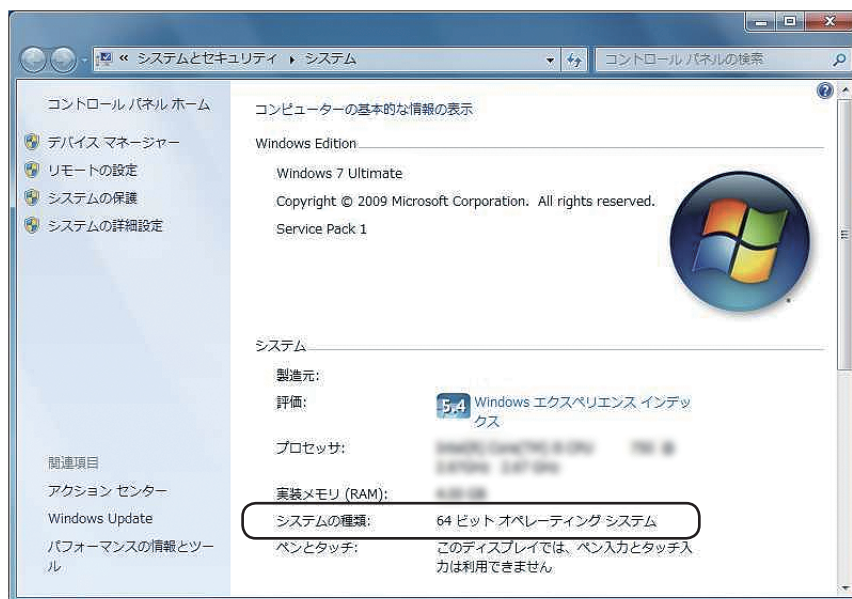
※MacOSは64bitOS対応版をご使用ください。

#### ◎確認方法

●WindowsXP →32bit版をご使用ください。

●Windows Vista / Windows 7

スタートメニュー→コンピューター→右クリック→プロパティ で表示されるウィンドウの「システムの種類」から確認可能です。



●Windows 8

キーボードのWindowsマーク+Pause Breakボタンを押して表示されるウィンドウ内の「システム種類」を確認し、対応するものをご使用ください。

## 2. 起動時の仕様変更

アプリケーション起動時にver.3までは、起動時に環境設定ウィンドウが開きましたが、ver.4では環境設定は開かず、そのまま起動します。設定変更して照合を行う場合は、起動後に「ファイル」メニュー→「環境設定」を選択し、ウィンドウを開いてください。

## 3. 起動するために必要なファイルについて

(1) Macintosh 版 → ProofCheckerPROv4 (アプリケーション) のみ

※起動するとアプリケーションと同じ階層に必要なファイルを自動生成します。フォルダ権限を「読み書き」に設定してから起動ください。

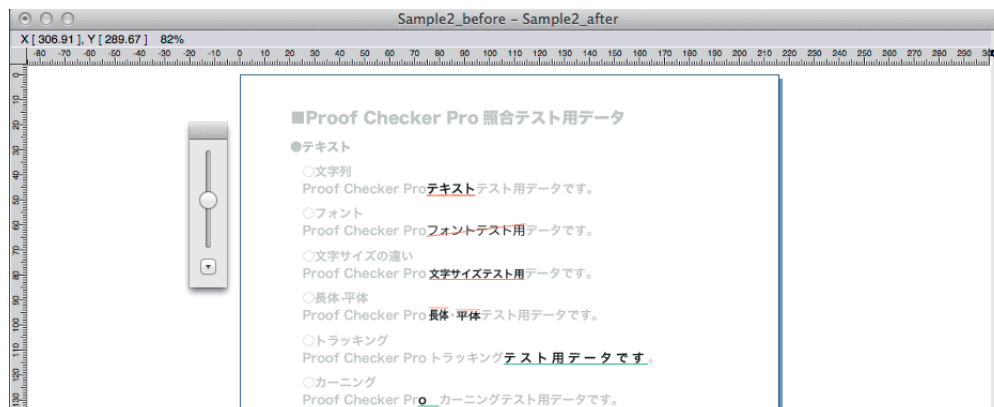
(2) Windows 版

32bit版/64bit版ともに共通 → ProofCheckerPROv4.exe (アプリケーション)、j2b.dll、reglnit64.exe、start.dll

※起動するとアプリケーションと同じ階層に必要なファイルを自動生成します。フォルダ権限を「読み書き」に設定してから起動ください。

## 4. あおり表示

- (1)「画面」メニュー→「新ファイルのみ」「旧ファイルのみ」を選択した際の表示が全画面表示になりました。
- (2)「画面」メニュー→「新ファイルのみ」「旧ファイルのみ」のショートカットを変更しました。  
新しいショートカットは、「新のみ表示：コマンド (Ctrl)+R」「旧のみ表示：コマンド (Ctrl)+E」
- (3)自動あおり照合を追加しました。  
「画面」メニュー→「自動あおり照合」(ショートカットキー：コマンド (Ctrl)+D) を選択すると、「新ファイル/旧ファイル」が自動的に切り替わり表示されます。



- ※「自動あおり照合」表示にすると、バーが表示され、煽り表示の早さを変更することができます。
- ※「自動あおり照合」表示中でもページめくりや、一部拡大表示をすることができます。

## 5. ナビゲートパレットの追加機能

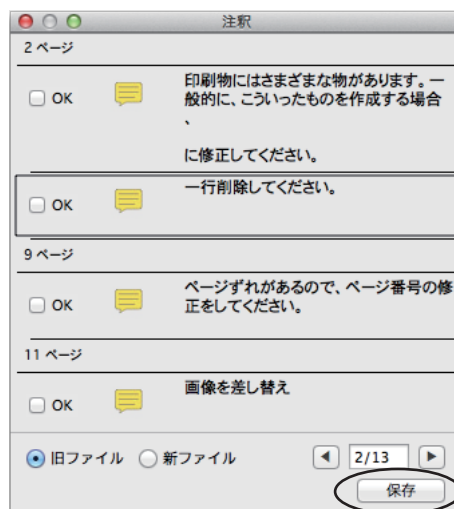
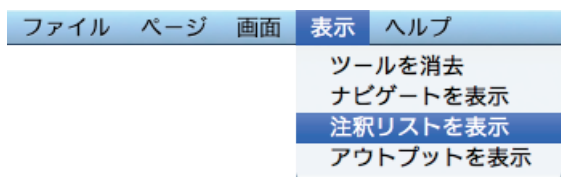
ナビゲートパレットから「番号追加」のチェックを入れることにより、照合結果ウィンドウ内に番号を表示し、印刷する機能を追加しました。番号のサイズ・色・斜体の変更可能です。



- ※番号表示にチェックをいれると、照合結果の不一致箇所左側に番号が表示されます。この番号はナビゲートパレットのセル番号と、テキスト表記で書き出される番号と一致しています。
- 「テキスト表記」で照合結果に番号表示し印刷し、「テキスト表記」から不一致項目情報を書き出すことによって、不一致箇所を見つけたり、結果レポートとして、ご使用いただくことが可能です。

## 6. 注釈付箋への対応

(1) Acrobat で追加した注釈付箋の読み込みおよび、データ書き出しが可能になりました。注釈マーク上でクリックすると、注釈テキストがポップアップし内容表示します。



CSV形式で書き出すことが可能です。

(2)「表示」メニュー→「注釈リスト」を選択すると、新旧ファイルの注釈一覧が確認できます。パレット内の項目をクリックすると、注釈のあるページ箇所にジャンプし、照合結果内の注釈が黒枠で選択されます。

## 7. 照合エリアの指定

照合結果ウィンドウ内で、照合エリアツールで選択された範囲は、照合の対象となります。このツールの操作は右ペイン(照合結果ウィンドウ内右側)、左ペイン(照合結果ウィンドウ内左側)どちらでも使用可能です。

照合エリアツールは右(左)ペインでエリア作成すると、自動的に左(右)ペインにも同じエリアが作成されます。また選択された範囲は、全ページに適用されます。

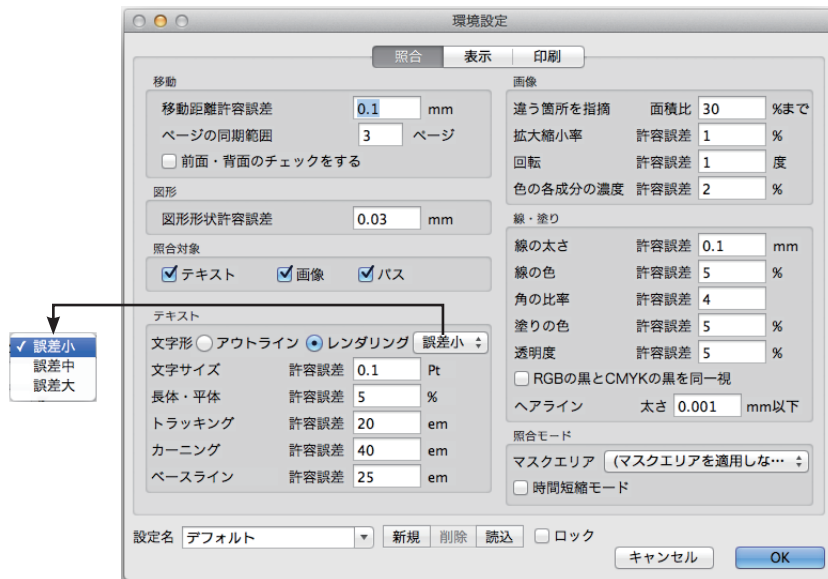


※「照合エリアツール」では、照合対象にしたい文字及び、オブジェクトをすべて囲むように選択する必要があります。

## 8. 文字のレンダリング比較機能

1文字ずつレンダリング(画像化)して比較することが可能になりました。

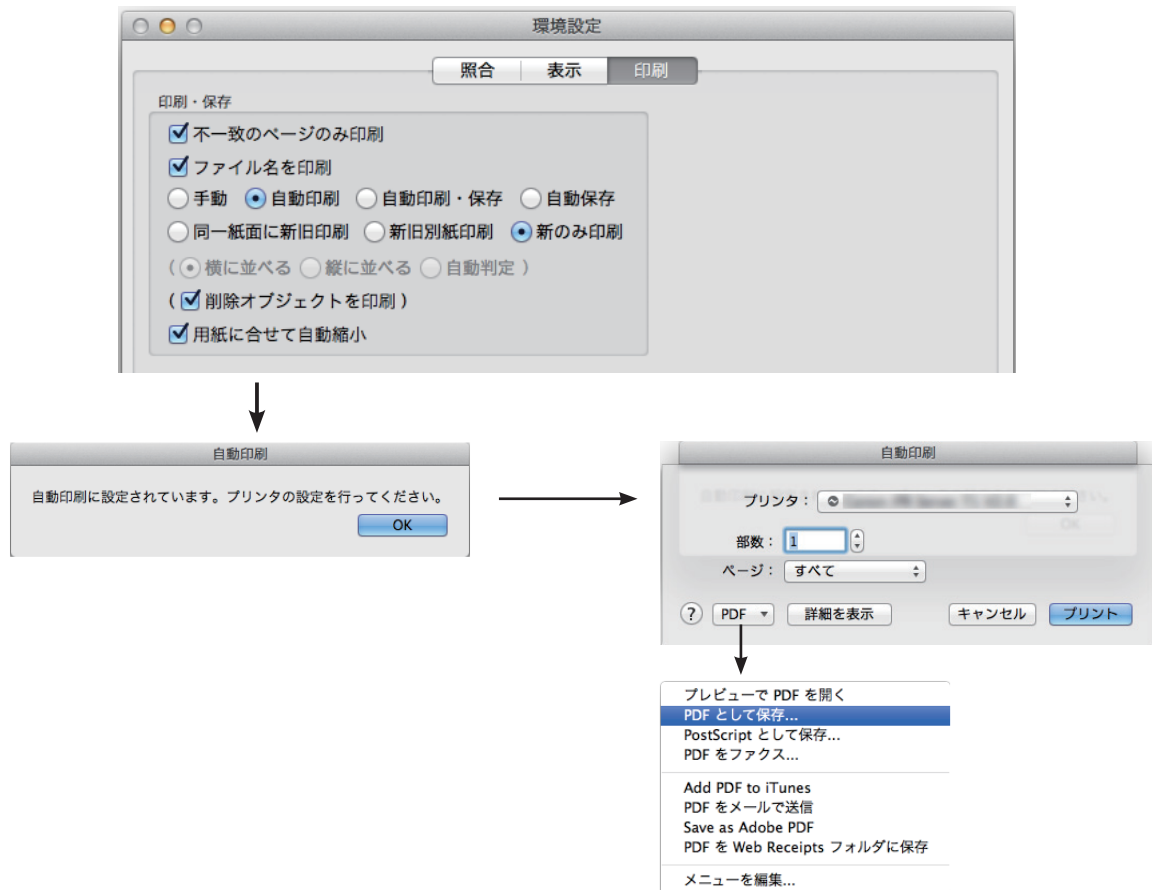
「ファイル」メニュー→「環境設定」→「照合」→「テキスト」→「レンダリング」を選択すると、許容誤差を小・中・大の3段階で設定可能です。



※例えば、「アウトライン」照合で同じフォント名のTrue Type 文字とType1(PS)フォントを照合すると、すべて不一致になりますが、「レンダリング」照合では、字形の違いが設定された許容誤差の範囲内であれば一致と判定されます。

## 9. 自動印刷→PDF保存時の自動名称設定 (Macintosh 版のみ)

「ファイル」メニュー→「環境設定」→「印刷」→「自動印刷/自動印刷・保存」に設定し、「PDFとして保存…」を選択すると、ファイル保存時に自動的に名前を付けて保存することが可能になりました。自動的にPDF作成される時の名称は、「旧ファイル名-新ファイル名.pdf」となります。



※プリンタ設定時に「PDF」→「Save as Adobe PDF」を選択した場合は、作成されるファイル名称は自動設定されません。表示されるダイアログに従い、個別に設定する必要があります。

## 10. 操作仕様の変更

従来、右ペイン (照合結果ウィンドウ内右側) でしかできなかった操作を左側でも操作可能になりました。

左ペイン (照合結果ウィンドウ内左側) でも以下のことが可能です。

- 拡大・縮小・手のひらツールでのスクロール
- マスクエリアの設定
- 照合エリアの設定

## 11. ファイル照合の開始方法

従来の「照合フォルダ」に2つのPDFファイルをドラッグする方法、および「ファイル」メニュー→「照合」からファイルを選択して照合を行う方法に加えて以下の方法でも照合可能になりました。

- アプリケーションのアイコンに2つのPDFをドラッグ&ドロップする。
- フレームウィンドウ内に2つのPDFをドラッグ&ドロップする。(Windows版のみ)